公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信

2018年
3月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆探鳥会訪問記・・・・・・・・・・・・・・1
・特集・会員を増やすための探鳥会⑤
◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・16
（2018年1月分）
◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・18
・連携団体（支部等）向け卸販売をご利用ください
◆今月の購読者数・・・・・・・・・・・・19
◆探鳥会スタッフ通信の無料配信について・20
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・20

◆探鳥会訪問記（特集・会員を増やすための探鳥会⑤）

今月号では、12月17日～24日に7か所で開催された「会員を増やすための探鳥会」（表1）の様子についてご報告いたします。
※全体で8回を企画されている栃木の「会員を増やすための探鳥会」は、来月号以降にまとめて記事にいたします。

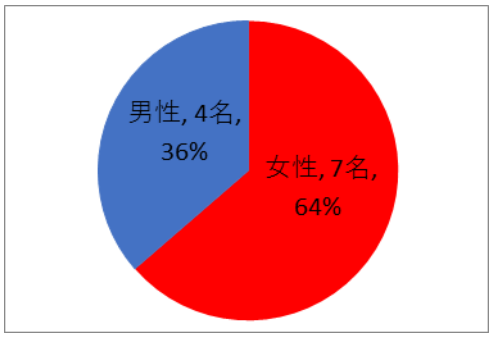
表1.

実施日	支部	実施場所	
2017/12/17（日）	茨城県	日立市	小木津山自然公園
	群馬	太田市	ぐんまこどもの国
2017/12/23（土・祝）	札幌支部	札幌市	北海道大学構内
	諏訪支部	岡谷市	諏訪湖　横河川河口
	滋賀	守山市	守山みさき自然公園
	鹿児島	鹿児島市	石橋記念公園
2017/12/24（日）	神奈川支部	横浜市	山下公園

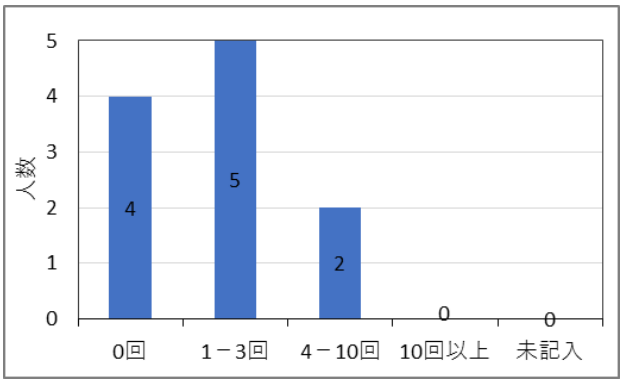
体験！野鳥観察 in 小木津山自然公園（茨城県）

【日程】2017 年 12 月 17 日（日）９時 30 分～11 時 30 分
【場所】小木津山自然公園（茨城県日立市）
【天候】晴れ
【参加者】11 名（うち一般参加者８名）
【リーダー】３名
【お試し入会】１名（一般参加者のうち約 13%）
【広報】
＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook
＜メール＞一斉メール送信（10/３～6、全国 51,602 名に送信）
＜チラシ＞探鳥会のご案内（10 月初旬から全国約 80,000 名に送付）
＜新聞＞朝日新聞（10/24）、茨城マリオン（12/11）

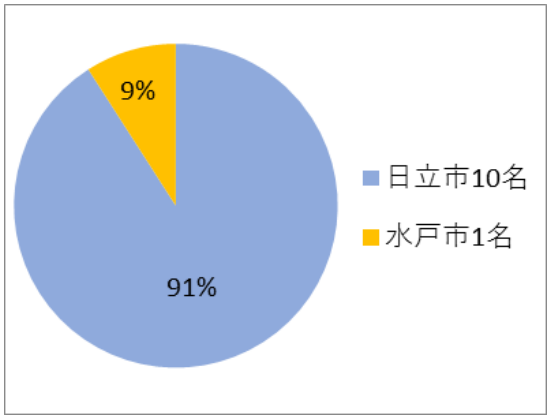
【性別】



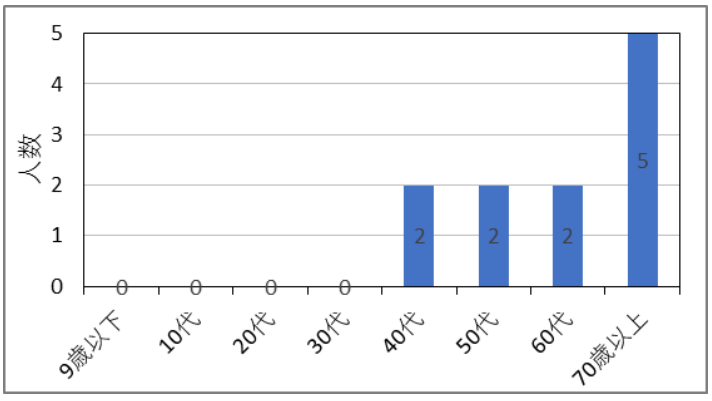
【バードウォッチングの経験回数】



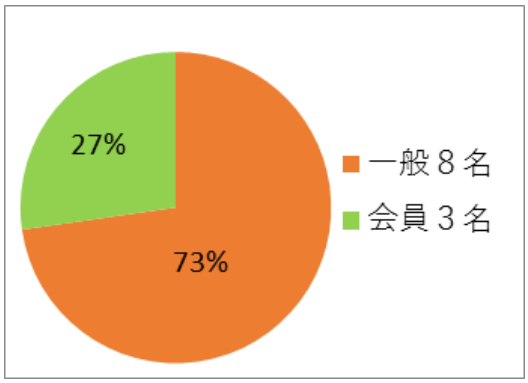
【お住まい】



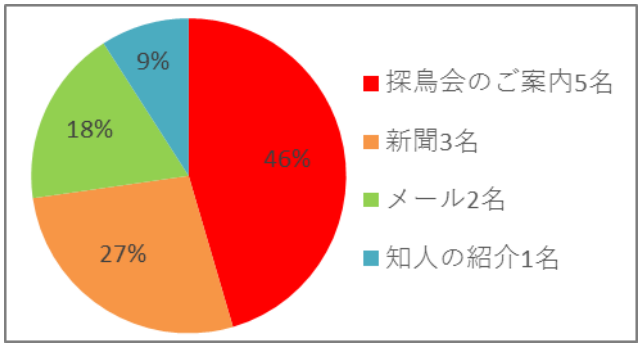
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■概要

小木津山自然公園は、日本野鳥の会茨城県の定例探鳥会のフィールドです。約 65ha の敷地には、雑木林や池、芝滑りができる広い草地などがあります。今回の探鳥会では、公園内をめぐる 2km 弱のコースを約 2 時間で歩き、池や林の鳥を観察しました。

■探鳥会の様子

＜受付の工夫＞

集合場所の駐車場の入口には、探鳥会のタイトル「体験！野鳥観察」と書かれた看板が掲げられました。受付にはアウトドア用のテーブルと椅子が用意され、参加者が落ち着いて受付名簿を記入できるようにされていました。

＜観察に出発＞

リーダーからのあいさつの後、観察に出発。すぐに大きな声で鳴くヒヨドリが見つかりました。そこは暗い林の中で、ヒヨドリがすぐに動いてしまってよく姿を見ることができませんでした。そこで、リーダーのみなさんは、図鑑を手に解説。ヒヨドリのページを開き、すぐに「この鳥ですよ。」と紹介していました。野外では、姿がはっきり見られないことや、気づいた時には飛び去ってしまうことも多いので、さっと図鑑を見せるのは、良い方法と思いました。

また、「ヒヨドリは、国内では当たり前にいる鳥だけど、世界的には日本周辺でしか見られないんですよ。」と、リーダーがさりげなく説明すると、皆さんはとても驚かれた様子でした。

＜観察と解説＞

林の中を進んでいくと、園内の池に到着。水辺でゆっくりと休むカルガモや、水辺を歩くハクセキレイなどが観察できました。そこでも、リーダーからいろいろなお話がありました。

例えば、

「カルガモの水の飲み方をよーく観察してみてください。」

「カモは止まっているように見えるけれど、よく見ると、足は常に動いていますね。」

「この鳥の名前を漢字で書くと、どんな字になると思いますか？」

「ハクセキレイは尾羽を上下に動かして歩くことから、イシタタキとも呼ばれているんですよ。」

…など、皆さんの観察のペースや興味関心にあわせてさまざま話題が出てきます。ゆっくりと観察しながら、鳥の行動の観察を促したり、行動に由来する別名を伝えて特徴を印象付けたりと、目の前にいる鳥をじっくりと観察して、楽しむことができました。また、リーダーの解説を聞いて、興味を持った参加者がさらに質問を投げかけ、一羽の鳥からどんどん話が広がっていきました。

＜道具の工夫＞

リーダーの皆さんは、解説のためにさまざまな道具を用意していました。例えば、B5 サイズほどの小さなお絵かきボード（磁力で文字や絵が描き消しできるボード）に鳥の名前を漢字で書いて説明されていたので、参加者にも話の内容がより分かりやすくなったと思います。道具は、肩掛けのバッグで携帯し、すぐに取り出せるように工夫されていました。

＜双眼鏡の使い方を確認＞

観察の途中で、ある女性から「私の双眼鏡では良く見えないんですけど…」と声をかけられました。その方が持参された双眼鏡を見せてもらうと、数倍から数十倍までズームができる双眼鏡でしたので、できるだけ倍率を下げて観察するようお勧めしました、また、リーダーが自分の双眼鏡を試してもらったり、選び方を説明したりしました。その参加者の方は、「双眼鏡を持ってはいましたが、使い方を知りませんでした。今日は、使い方、選び方がわかってよかったです。」と、おっしゃっていました。双眼鏡を持参されている方には、どのような双眼鏡をお使いか、本当に見えているかどうかを確認することで、これからもバードウォッチングを楽しんでもらえるきっかけになるのではと感じました。

■参加者の声

30 代女性：先週の涸沼の初心者向け探鳥会（日本野鳥の会茨城県開催）に参加し、とても楽しかったので今日も参加しました。鳥が分かるようになると、コンビニの駐車場にハクセキレイがいることに気づけるようになるなど、日常の景色の見え方が一変しました。

60 代女性：日本野鳥の会のアウトドアグローブを購入したことがきっかけで、探鳥会のご案内を受け取るようになり、探鳥会に参加しました。

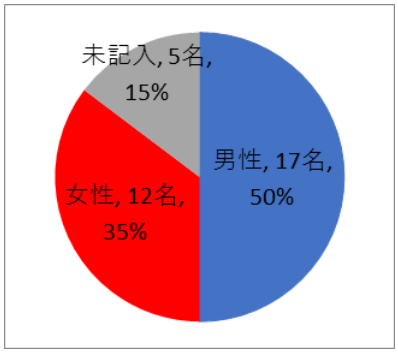
■まとめ

見られた種類はそれほど多くはありませんでしたが、一羽一羽、一種一種をより深く観察することできました。終わった時に、バードウォッチングを楽しんだと感じられる探鳥会でした。　（普及室／江面康子）

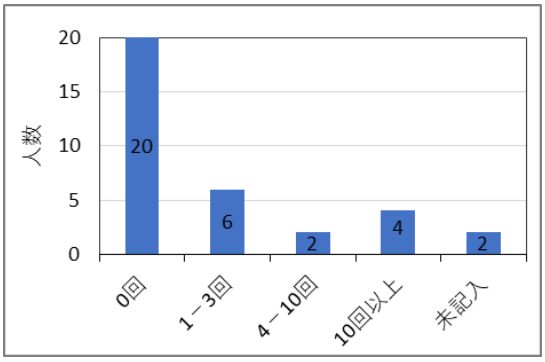
初心者のためのバードウォッチング（群馬）

【日程】2017 年 12 月 17 日（日）９時 30 分～11 時 00 分
【場所】ぐんまこどもの国（群馬県太田市）
【天候】晴れときどき曇り
【参加者】34 名（うち一般参加者 29 名）
【リーダー】９名、財団職員２名
【お試し入会】６名（一般参加者のうち約 21％）
【広報】
＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook
＜メール＞一斉メール送信（10/３～６、全国 51,602 名に送信）
＜チラシ＞探鳥会のご案内（10 月初旬から全国約 80,000 名に送付）
＜ラジオ＞FM ぐんま（12/12、16）
＜新聞＞朝日新聞（10/24、12/15）、上毛新聞（12/6、12/17）、読売新聞（12/15）、
毎日新聞（12/2）
＜テレビ＞NHK 前橋（12/16）

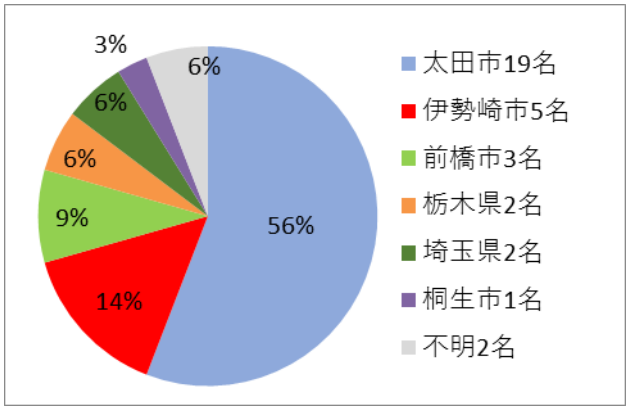
【性別】



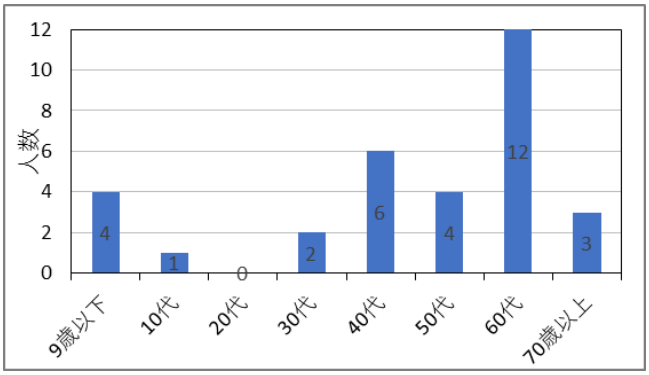
【バードウォッチングの経験回数】



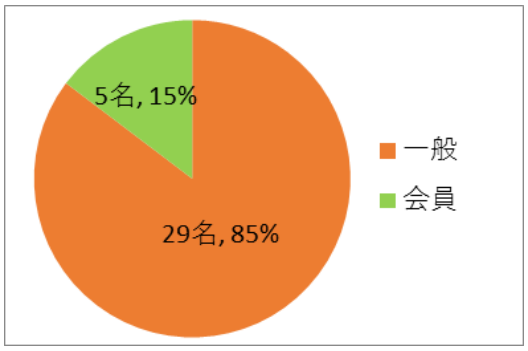
【お住まい】



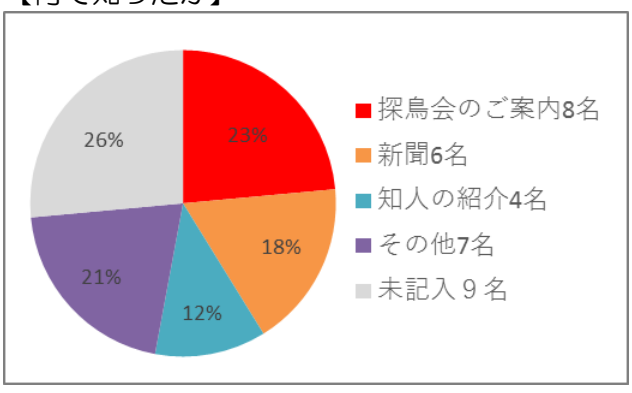
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■開催の概要

開催場所の県立金山総合公園「ぐんまこどもの国」（群馬県太田市）は、太田市のシンボルでもある金山が近い探鳥地で、山では散策ツアーなども実施されている自然観察スポットです。天候は晴れときどき曇り、北風が朝から吹き始めています。

受付開始後、太田市のほか隣町や隣県の栃木、埼玉から 30 名以上の参加者が集まりました。こどもの国での開催とあって、親子連れも３組いました。

■探鳥会の様子

最初のアナウンスで各リーダーから簡単な挨拶があり、紙芝居方式で鳥を見るときのマナー、双眼鏡の扱い方についての説明がありました。そして、じゃばら折にたたむとハンドサイズになる鳥合わせ用の野鳥リストが配布されました。

案内地図の前でルートを確認後、緩やかな坂を上がりながらカモ類がいる２つの池を目指します。先導役のリーダーを先頭に、間に他のリーダーが入り、１グループで進みました。

▲観察の様子

実はこの公園は、10 月に台風 22 号の影響を受け、土砂崩れによる倒木の被害がありました。開催時は開園できる程度に復旧していましたが、改修工事中の箇所を避けたルートとなりました。すっかり葉を落とした冬の林から時々鳥の鳴き声が聞こえ、双眼鏡を構えますが、見えるのは枝木ばかりでなかなか鳥が姿を現しません。鳥がどこかにいないか支部の方々も目を凝らしていると、池の方向からシジュウカラが“ツツピー”と鳴きながら姿を見せ、参加者もやっと鳥と対面できました。

▲観察の様子

坂を上ると、それまで吹いていた風が幾分か収まりました。カモの姿に子どもたちは興奮。カルガモ、マガモ、コガモなどが泳いでいます。支部の方々が期待していた鳥（カワセミやオシドリ）は現れませんでしたが、代わりに“カワセミの糞の跡”を望遠鏡で見てもらいながら、巣穴をどういったところに作るか小話を参加者に伝えていました。

続いて２つ目の池に移動、鳥観察用の小窓があります。そこでは枝の上でゆっくりしているカモ類の姿があり、足先の色を確認することができました。

池を一周し、最後の鳥合わせは、集合場所に戻る途中にある立派な工房舎（屋内）で行い、約 22 種の鳥を確認しました。

■参加者の声

他の探鳥地で顔見知りになった支部の方の知人、元支部会員で久しぶりに参加する参加者も数名いたそうです。

50 代女性（お１人で参加）：
元々隣県の支部に所属していました。探鳥会への参加はかなり久しぶりです。太田市に引っ越したことをきっかけに、今回改めて探鳥会に参加しました。

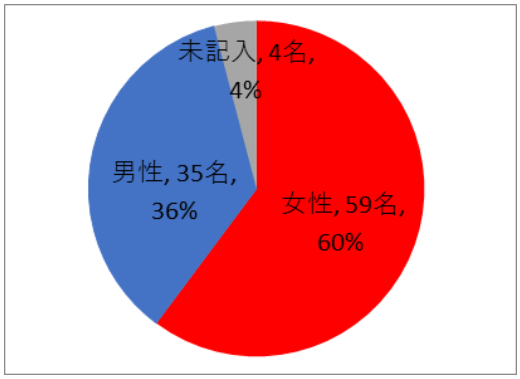
30 代女性（ご夫婦で参加）：
夫が猛禽類に関心を持つようになり、探鳥会の存在を知って今回参加しました。鳥を見に行くのは今回が初めてです。双眼鏡を借りることができたので、夫婦で一緒に鳥を見ることができてよかったです。

（普及室／房南都子）

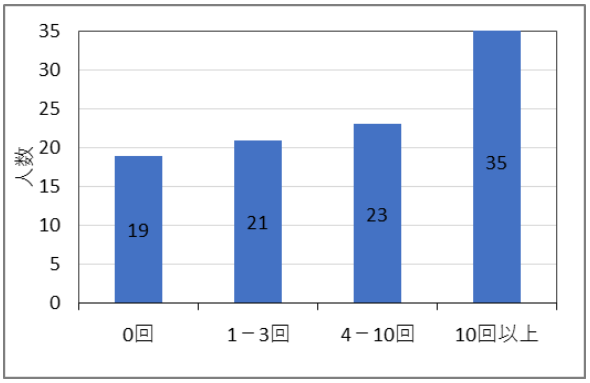
北大構内クリスマス初心者探鳥会（札幌支部）

【日程】2017 年 12 月 23 日（日）9 時 00 分～12 時 00 分
【場所】北海道大学（北海道札幌市）
【天候】晴れ
【参加者】98 名（うち一般参加者 53 名）
【リーダー】10 名
【お試し入会】0 名
【広報】
＜インターネット＞支部 HP、財団 HP、財団 Facebook、北海道新聞電子版
＜メール＞一斉メール送信（10/3～6、全国 51,602 名に送信）
＜チラシ＞探鳥会のご案内（10 月初旬から全国約 80,000 名に送付）
＜新聞＞朝日新聞（10/24）、北海道新聞（12/26）

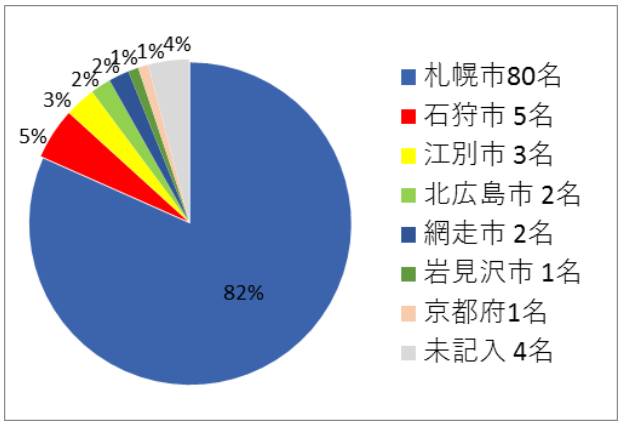
【性別】



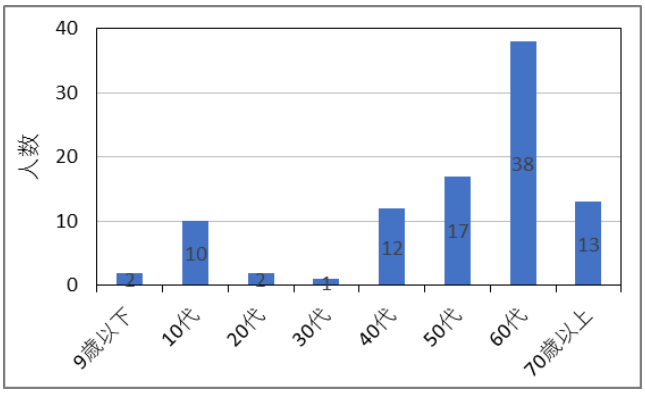
【バードウォッチングの経験回数】



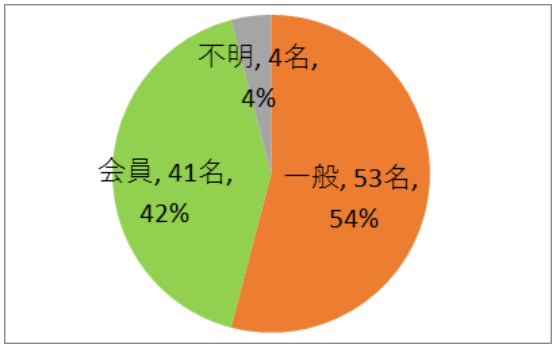
【お住まい】



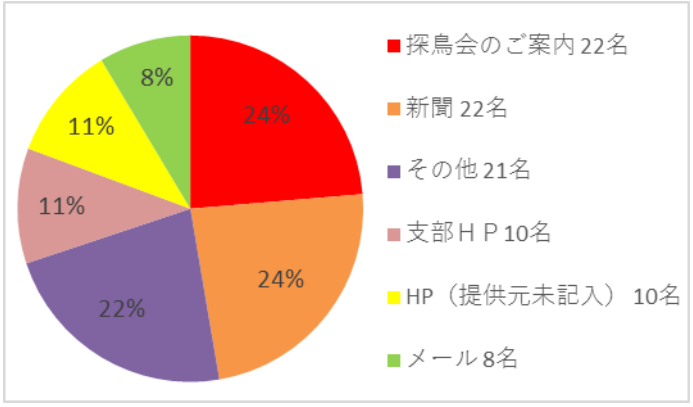
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会の概要

北大構内探鳥会は、初心者向けの探鳥会として札幌支部が年２回開催しているものです。集合場所の北海道大学正門は、札幌駅から徒歩５分と交通の便が良い場所です。北大正門を出発し、大学構内の林や池、小川、ポプラ並木を巡り、再び正門まで戻る 2km あまりのコースでした。当日は、親子連れ、20 代の方からシニア層まで、実に様々な年代の方々が集まりました。

■探鳥会の様子

集合場所には、集合時刻の前から続々と参加者が集まり、リーダーが手分けして名簿の記入や資料の配布、双眼鏡の貸出を行っていました。

観察に出発する前に、参加者を４つの班に分けました。初めての方を集めた班を３つ、経験者の班を１つとし、それぞれ２名程のリーダーが案内しました。

▲100 名近い参加者で集合場所は大にぎわい。

前の週の大雪で、コースには雪深い場所がありました。また、解けた雪が凍っている場所もありましたが、多くの方がスノーブーツや長靴を履き、準備万端でした。北海道の皆さんはさすがだなと感心しました。

コースを歩いていると、通路のすぐそばでアカゲラやヤマガラなどがよく見られ、せわしなく木の間を動きまわる姿、コツコツと木をつつく姿、かわらしいしぐさなどをゆっくり堪能することができ、

「（アカゲラの）赤がきれい。」

などの声があちこちから上がっていました。

また、葉が落ちた木の上に、ハイタカが見つかる場面もありました。とても高い木の上で、しかもやや離れたところからの観察でしたので、どこを見たらよいかが分からない参加者も多くおられました。そこで、リーダーは望遠鏡でハイタカを見せたり、図鑑で姿を分かるように説明したりしていました。そのため、参加者の皆さんは、望遠鏡で場所を確認した後に自分の双眼鏡で鳥の姿を見つけられたようで、

「あ、いたいた。」

といった声が自然と増えていきました。

観察中、何度かエゾリスが現れ、アクロバティックに木の間を動き回る姿が見られ、子どもたちの視線を釘づけにしていました。また、オオウバユリの群生地があり、ぱっくりと口を開けた実を観察しました。リーダーが実を揺らすと中からたくさんの種が風に乗って飛んでいきます。さらに、ガガイモのふわふわした綿毛のついた種を飛ばして見せる場面もあり、鳥以外にも見どころの多い探鳥会でした。

■参加者の声

大学一年生の女性：大学で動物に関する勉強をしています。これから何を専門にするかを決めるため、鳥のことを知りたくて参加しました。

小学生の女の子：宿題の自由研究で野鳥のことを調べているので参加しました。何を食べているのか観察したり、どうして小鳥は混群になるのかを質問して、ノートに記録しました。

■まとめ

毎年開催している探鳥会で、いつも多くの方が参加する人気の会であったことに加え、今回は会員を増やすための探鳥会として広報をしたため、大変多くの参加者が集まりました。受付では混雑する場面もありましたが、リーダーの皆さんは、大人数や初めての方の対応は経験済みのとのこと。初心者のみのグループを作るなどの対応や、グループ毎に鳥あわせやまとめの話をして解散するなどの段取りが、組まれていました。

４班に分かれてからは、各班でペースやコースを配慮しながら観察されていました。観察からまとめの話まで班ごとに行われたので、リーダーの解説が全員に行き届いていました。

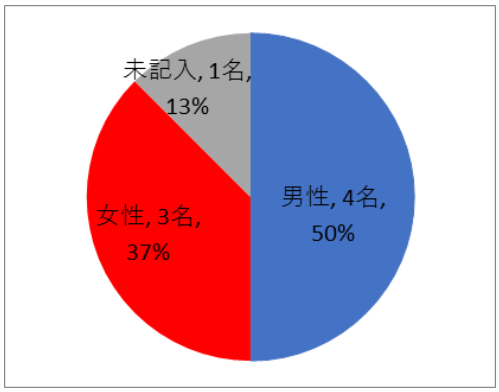
また、受付の際、図鑑などの販売も行われていて、参加者には嬉しいサービスになったと思いました。

（普及室／江面康子）

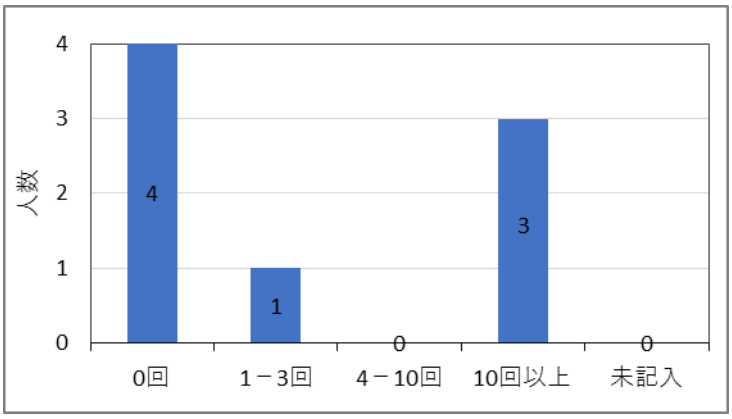
諏訪湖　ビギナーズ探鳥会（諏訪支部）

【日程】2017 年 12 月 23 日（祝・土）9 時 30 分～11 時 30 分
【場所】諏訪湖横河川河口（長野県岡谷市）
【天候】晴れ
【参加者】８名（うち一般参加者６名）
【リーダー】６名、財団職員２名
【お試し入会】２名（一般参加者のうち 33%）
【広報】
＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook
＜メール＞一斉メール送信（10/3～6、全国 51,602 名に送信）
＜チラシ＞探鳥会のご案内（10 月初旬から全国約 80,000 名に送付）
＜新聞＞朝日新聞（10/24）、信濃毎日新聞（12/15）

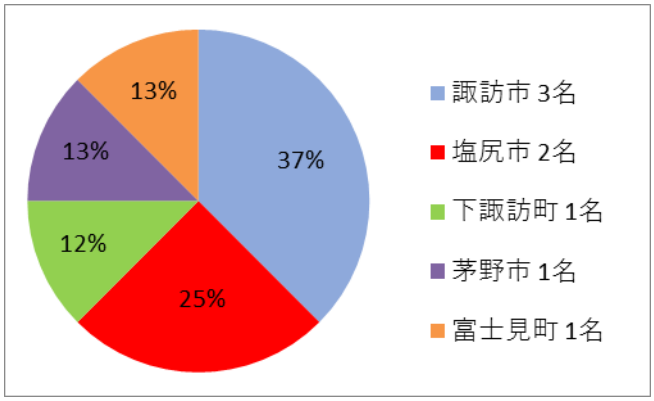
【性別】



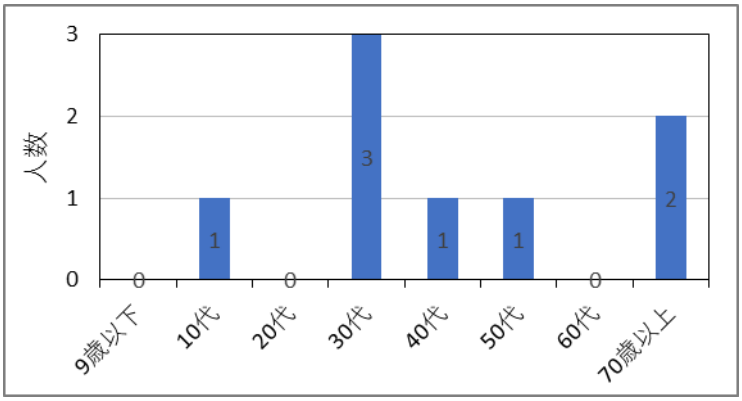
【バードウォッチングの経験回数】



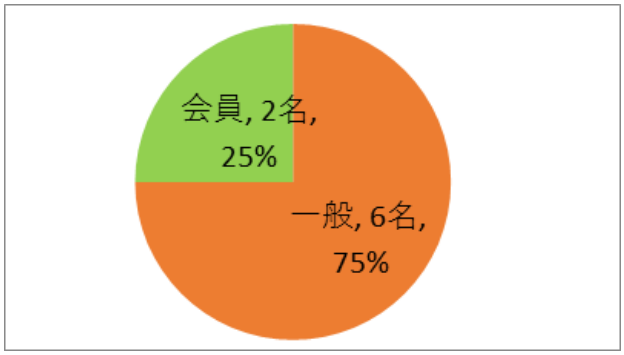
【お住まい】



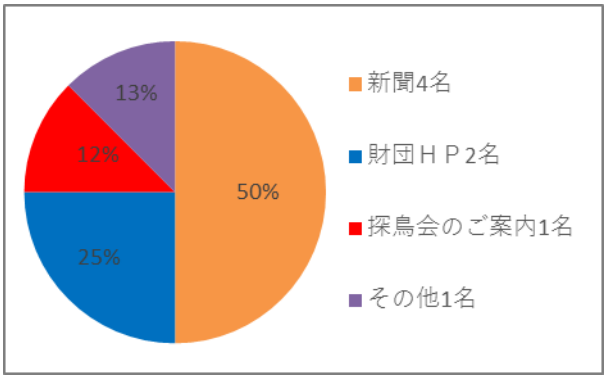
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会の概要

諏訪支部での「会員を増やすための探鳥会」の開催は今回が２回目で、開催場所は前回と同じ、横河川が諏訪湖に流入する河口です。集合場所からは、湖に浮かんでいたり、湖岸の草地で休んでいたりするたくさんのカモたちが見えています。前回と同様に、ほとんど移動をせずに観察しました。

■探鳥会の様子

集合場所では、折りたたみテーブルに配布資料や受付シートを並べて、参加者を待ち受けます。集合時間になったところで、集まった参加者８名に、リーダーが挨拶を始めました。

まずは、諏訪支部の説明をした後、この探鳥会が初心者向けであることを強調しました。野鳥の中では水鳥が観察しやすいため、最初は皆で水鳥を観察して、慣れたら他のいろいろな野鳥を見てみましょう、と締めくくりました。

湖岸からは、オナガガモ、キンクロハジロ、ヒドリガモ、オオバンなどの野鳥を近くから観察しました。リーダーが、１種ずつ説明していきます。オオバンの足など、見えにくい部分の説明はイラストを使って説明しました。

探鳥会はみなリラックスした雰囲気で進み、オオバンを観察中の参加者からは
「カラス以外にも、真っ黒な鳥がいるのねえ。」
といった感想も聞かれました。

また、途中でリーダーが鉄塔にとまるハヤブサを見つけました。リーダーのスコープを覗いてみんなで観察します。全員が見ることができた後で、ハヤブサが飛び立ち、私たちの目の前で浮かんでいるカモめがけて急降下しました。カモはぎりぎりのところで潜ってかわします。
リーダーは、
「あの鉄塔に、よくハヤブサがとまるんですよ。でもあのハヤブサは、狩りはあまり上手くないんです。」
と説明しました。
「バードウォッチングというのは、鳥の名前を覚えるだけではなくて、こうして自然に生きる野鳥の生態を知ることなんですよ。」
というリーダーの言葉に、参加者もなるほど、と納得した様子でした。

リーダーは野鳥の生態だけでなく諏訪湖の事情にも詳しく、両方を織り交ぜて参加者にわかりやすく説明されていました。
「カワアイサは、本来はこんなに岸の近くで見られる鳥ではないんですよ。」
諏訪湖では、ワカサギが導入されて漁業がおこなわれているため、魚を食べるカワアイサが害鳥とみなされているそうです。毎日ボートでカワアイサの追い払いがされるため、逃げてきたカワアイサが湖岸近くで見られるとのこと。休憩中に追い払われることでストレスを与えてしまうことが心配だと説明されました。

また、観察中には、観察場所から数十メートル先で、カモに餌をやる人が偶然現れました。１人のリーダーはその人のところに向かい、残ったリーダーは、参加者に対して、野鳥にエサをやることでどのような悪影響があるのかを説明されました。

観察のあとは、全員集まって和やかな雰囲気の中での鳥合わせと、グルという名前のオオワシの紹介がありました。グルは 19 年前に、諏訪湖で衰弱しているところを諏訪支部長たちが助けたオオワシで、今では毎年、諏訪湖にやってくるそうです。実物大の模型を見せると、その大きさに参加者は驚いた様子でした。

最後に、お試し入会の紹介がありました。お試し入会することで、支部報が３回届くことや探鳥会の参加費が会員価格になることなどを説明しました。そして、探鳥会の参加者全員に一部ずつ支部報を配り、掲載されている探鳥会にまた来てほしい、と締めくくりました。

参加者一人ひとりに支部報を手渡しながら、リーダーたちが改めてお試し入会について紹介したため、参加者は入会に対する気持ちが高まったのではないかと思います。

今回のお試し入会者は２名。２組のご夫婦から、それぞれ１名ずつがお試し入会されました。

■まとめ

移動しなくても常にさまざまな野鳥が近くから観察でき、密度の濃い探鳥会でした。

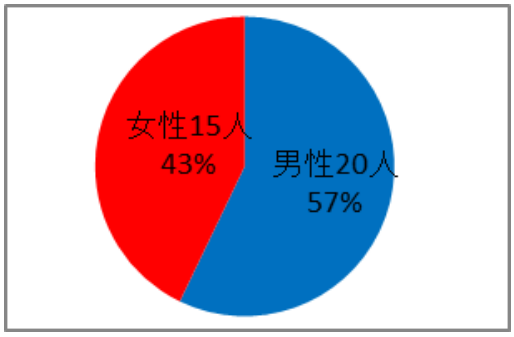
実際に野鳥と人とのあつれきが起きているところを目の当たりにしながら、支部の取り組みや考え方を聞くことができたため、支部が野鳥を観察するだけではなく、野鳥や自然を守る活動をする団体であることが参加者に伝わったと思います。また、参加者が野鳥に詳しくなくても、野鳥を見ながら支部の保護活動の紹介を聞くことで「自分もこの野鳥たちを守りたい」という気持ちが湧くのではないかと感じました。

（普及室／井上奈津美）

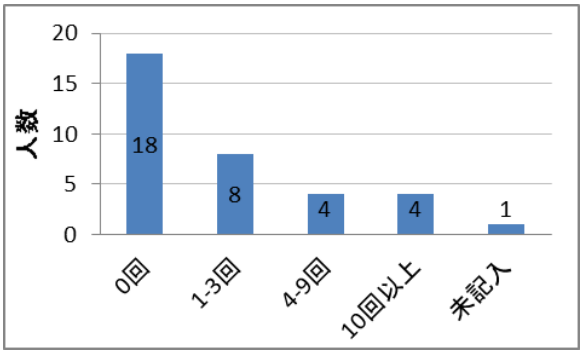
はじめてのバードウォッチング in 守山みさき自然公園（滋賀）

【日時】2017 年 12 月 23 日（祝・土）9 時 00 分～12 時 00 分
【天候】晴れ
【場所】守山みさき自然公園（滋賀県守山市）
【参加者】35 名（うち一般参加者 31 名）
【リーダー】6 名
【お試し入会者】7 名（一般参加者のうち約 23%）
【広報】
＜インターネット＞支部 HP、支部 Facebook、財団 HP、財団 Facebook
＜メール＞一斉メール送信（10/3～6、全国 51,602 名に送信）
＜チラシ＞探鳥会のご案内（10 月初旬から全国約 80,000 名に送付）
＜新聞＞朝日新聞（10/24）、リビング滋賀（11/11）、中日新聞（12/22 掲載）、毎日新聞（12/22 掲載）
＜その他＞守山市報（12/1）
【共催】みさきパークセンター

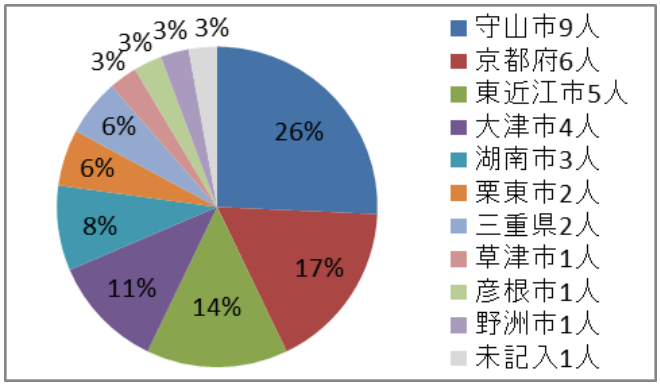
【性別】



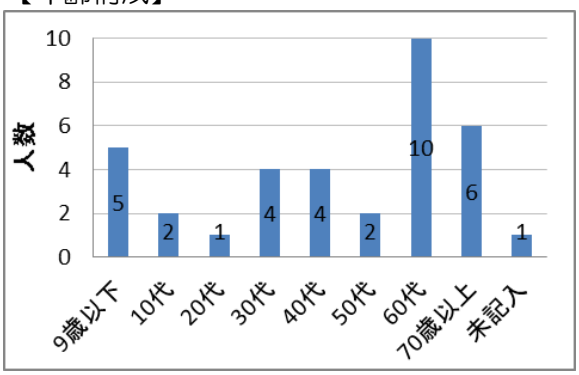
【バードウォッチングの経験回数】



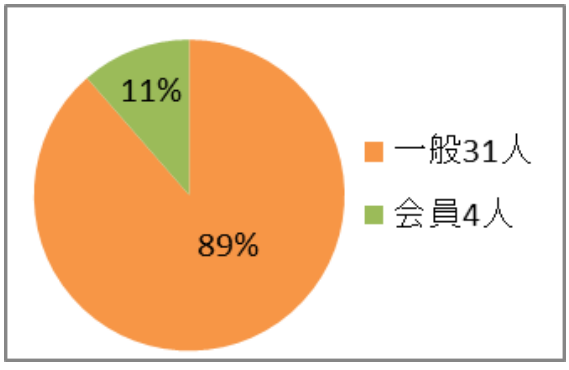
【お住まい】



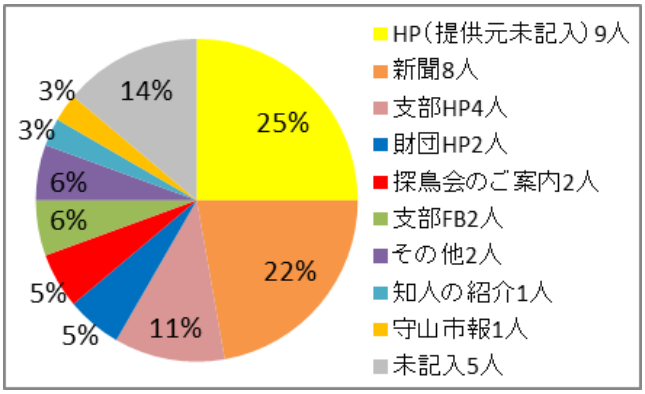
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

今回の探鳥会の会場「守山みさき自然公園」は、水辺の環境を再生し水生動植物の観察や学習の場を目指して平成 14 年にオープンした体験型の公園です。最寄りの JR 駅からは路線バスを使って 20 分ほど。また、200 台以上収容可能な広大な駐車場を有し、多くの市民が自家用車を移動手段とするこの地域では利用しやすい環境です。園内はバリアフリーに設計され、平坦で幅の広い舗装園路が整備されています。公園オープンから年が浅いため樹林帯はまだまばらですが、かえって見通しがきいて小鳥を見つけやすい、初心者を対象とした探鳥会にはうってつけのフィールドです。

支部では、パークセンターに観察会企画を持ちこみ共催企画にしてもらい、守山市報に掲載してもらうなど、事前に積極的な渉外活動を展開されていました。

当日は 35 人の参加者を迎え、園内を約 2 時間かけてゆっくりと観察、パークセンター体験学習室で締めくくりをする内容でした。

■探鳥会の様子

定刻 30 分前には集合場所の公園駐車場にスタッフが到着し、受付のセッティングを始めます。次に事前に作成・周知されていた進行書をもとに、今日の役割分担や時間配分を再確認します。パークセンターの職員の方との簡単な打ち合わせや、双眼鏡の使い方の練習用の模型の仕込みなども同時進行でてきぱきと進められました。参加者を誘導するために、集合場所から少し離れた最寄りのバス停にスタッフが一人待機します。

次々とやってくる参加者をスタッフが笑顔で出迎えます。双眼鏡の貸し出しは、「会員を増やすための探鳥会」の回数を重ねる度に工夫を加えてどんどんスムーズになっています。今回は貸し出し担当のスタッフを決め、貸し出し用の名簿を作っておられました。

いよいよ観察会のスタートです。スタッフ挨拶や行程の説明の後、参加者をファミリー主体のグループと、大人主体のグループの 2 つに分けました。まずは街路樹の中に仕込んでいた鳥の模型を使って双眼鏡の使い方の練習です。明確な目標物を設定することで参加者自身が積極的に双眼鏡に慣れようとするだけでなく、参加者が双眼鏡を使えているかどうかをリーダーやスタッフが把握しやすくなる効果もあったようです。

水場ではカモ類や、バン、カイツブリなど 10 種以上の水鳥を間近に観察することができました。初めて双眼鏡に鳥を捉えることができた参加者から歓声が上がります。

「大きくはっきり見える。」

「きれいな色！カモってオシャレねえ。」

水場から少し目を転じ、樹林帯ではヒヨドリやカワラヒワ、エナガ・シジュウカラの混群が参加者の興味を引きます。水鳥のようには簡単に観察させてくれない小鳥たちに閉口しながらも、リーダーの助けを借りながら懸命に双眼鏡のピントを合わせる参加者たちから、鳥たちをもっと見たい、もっと楽しみたいという気持ちが伝わってきました。

灌木の茂みから聞こえるウグイスの地鳴きや、ベニマシコの声など姿が見えない鳥たちの気配を探したり、頭上を飛んでいくカモのギシギシいう羽音に驚いたりと、聴覚もフル動員して 2 時間の探鳥を満喫しました。

パークセンターの学習室で、落ち着いてクロージングをします。鳥合わせのあと、支部の活動とお試し会員の案内、感想文の記入のお願いをして散会しました。たくさんの鳥との出会いを参加者皆が体験し、とても満足度の高い観察会でした。

■まとめ

滋賀では今年度 3 回の「会員を増やすための探鳥会」に取り組みました。毎回、前回の実施結果を踏まえて様々な工夫・改良にチャレンジされているのがとても素晴らしいです。

開催場所はそれぞれタイプの違うフィールドで単純に比較できませんが、水鳥を中心に身近な小鳥もしっかり見られる環境での探鳥会では、参加者が高い満足度と共に「また見たい」「次の探鳥会はいつかな」という次への期待をより抱いている印象を受けました。

近隣支部主催のものも含めて、会員を増やすための探鳥会にリピートして参加してくださる方が数名いらっしゃいました。このようなリピーターの方々にお試し入会をお勧めするツールやノウハウの工夫が今後の課題だと思います。

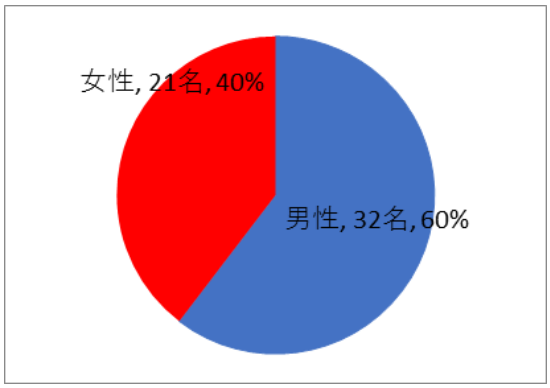
（普及室／浅野綾子）

初心者向け 石橋記念公園探鳥会（鹿児島）

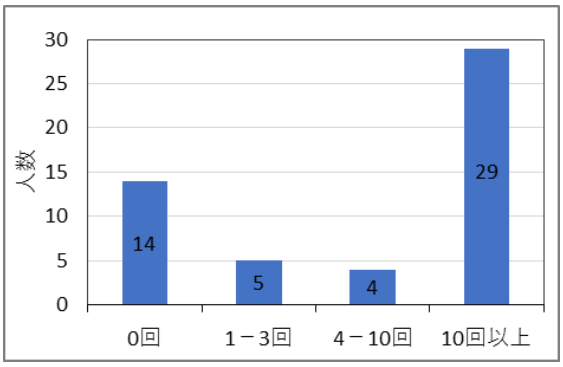
【日程】2017 年 12 月 23 日（土・祝）9 時 00 分～11 時 00 分
【場所】石橋記念公園（鹿児島県鹿児島市）
【天候】曇り
【参加者】53 名（うち一般参加者 29 名）
【リーダー】7 名、財団職員 1 名
【お試し入会】28 名（一般参加者のうち約 34%）
【広報】
＜インターネット＞支部 HP、財団 HP、財団 Facebook、かごしま環境未来館 HP
＜メール＞一斉メール送信（10/3～6、全国 51,602 名に送信）
＜チラシ＞探鳥会のご案内（10 月初旬から全国約 80,000 名に送付）、過去の支部探鳥会参加者への案内状
＜新聞＞朝日新聞（10/24）、南日本新聞
【共催】かごしま環境未来館

※下記のグラフは、支部からいただいたデータから作成させていただきました。

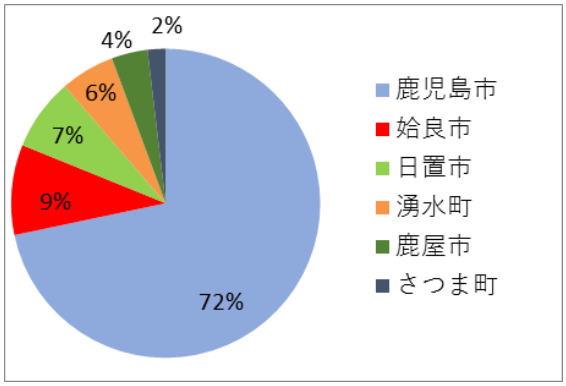
【性別】



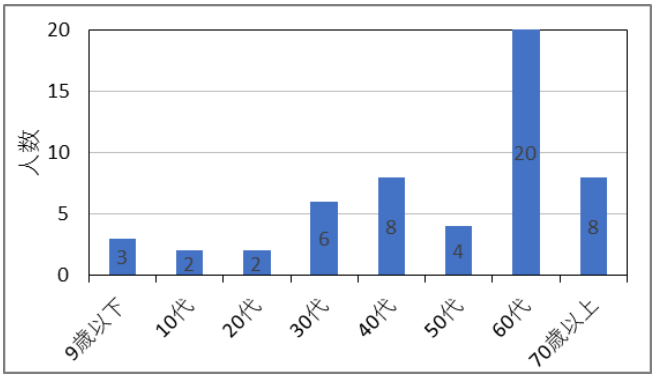
【バードウォッチングの経験回数】



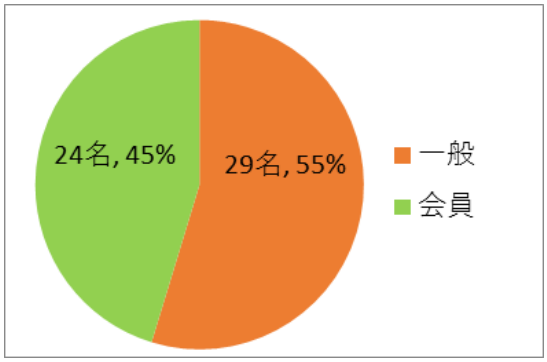
【お住まい】



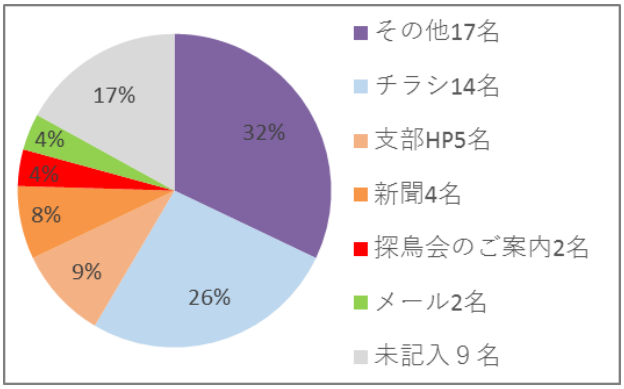
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会の様子

今年度から「会員を増やすための探鳥会」に参加された鹿児島。会場は、鹿児島のシンボル桜島を一望できる石橋記念公園です。この公園は、西田橋という歴史文化遺産を市街地から移築して保存するために作られた公園です。

今回の探鳥会は鹿児島市のかごしま環境未来館とも共催しており、新聞で告知が行われたところ、参加者はバードウォッチング経験者と未経験者が入り混じって 53 人が参加されました。経験者と未経験者の二つに班を分け、私は未経験者のグループにつきました。最初に支部のリーダーから、双眼鏡の使い方についての説明があり、石橋の上から地面を歩いているドバト、キジバト、ハクセキレイを双眼鏡で見ました。参加者は、見たところ半分ぐらいの方がうまく双眼鏡を扱うことができておらず、何人かのリーダーが目くばせしながら、個別にアドバイスを行い、目の幅を合わせたり、アイレリーフやピントの調整、双眼鏡の角度を変えたりしながら少しずつ慣れていっていただきました。

そこから、歩いて別の橋の上から川を見下ろして、水鳥を観察しました。ヒドリガモのペアを観察して、カモが渡り鳥であることや現在繁殖期でオスは繁殖羽であることなどの解説に参加者は聞き入っていました。アオサギについてはその大きさについての解説があり、ツルとの違いについての話がありました。その他、建物のアンテナにとまっているチョウゲンボウを観察していると、カマキリを捕食するシーンを見ることができて、参加者からは歓声が上がっていました。

その間、参加者には、小まめに「見えていますか？」と声をかけるようにしました。すると 1/4 くらいのビギナーの方が、見えていないけど、見えているふりをされているご様子でした。見えていない人は、自分から見えていないとは言わない（言えない）ということを実感した次第です。

途中 10:26 に、種子島の宇宙センターからロケットの打ち上げがあり、遠くの方でわずかに飛行機雲が伸びていくのが見えました。ロケットの打ち上げシーンを見ることができるなんて、さすが鹿児島の探鳥会ですね。

●今いる会員を大切に

鹿児島ではピークだった 2009 年に約 400 人いた会員数が、現在では約 300 人に減少し、支部では会員減少を食い止める工夫が行われています。考え方として、新しい人を勧誘することも大切ですが、まず今いる会員を減らさないことを基本的な考え方としてきました。

これまでの傾向から、「探鳥会から遠のくことは、退会のサイン」と受け止めて、探鳥会に来なくなった人に葉書を送るということを行っています。すると、「体を壊していた」「親の介護で時間がない」など現在の状況を綴った返信が返ってくることがあります。そして、葉書を出すことによって、状況が落ち着いたときには、また探鳥会に戻ってきてくれることもあります。

支部で退会者の動向を分析したところ、退会者にはもちろんご高齢のためやむを得ず退会される方もいますが、入会して 3 年で半減していることがわかりました。この方々は探鳥会に参加されていない方が多く、支部報のみでつながっている会員です。

以上のことから、入会して 3 年目までの間に探鳥会に来てもらい、face to face の付き合いを始めることができれば、退会率が下がるのではないかとおっしゃっていました。

●探鳥会が会員増のカギ

過去のデータを集計した結果、鹿児島では探鳥会の参加人数と会員数には相関関係があるとみています。つまり、探鳥会の参加者が増えれば会員が増え、会員が増えれば探鳥会参加者が増えるということです。そこで、探鳥会の参加者を増やすことによって会員を増やすことができるのではないか、という仮説のもとに探鳥会の充実に力を注いでいます。

具体的には、初心者にとって居心地のよい探鳥会を運営することです。新しい参加者には必ず声をかけること、参加者の履歴をつけて小まめにご案内を出すこと。これらのことを通じて、「支部では本当に会員を大切に思っている。」ということを会員に伝えることが大切だとおっしゃっていました。

●支部の活動を次世代に

支部のリーダーは約 30 名（会員の一割）。会員数当たりのリーダーの人数は、他の支部と比べてもかなり多い方だと思います。これだけのリーダーがいるから、初心者に目が行き届いた充実した探鳥会ができるのだと思います。

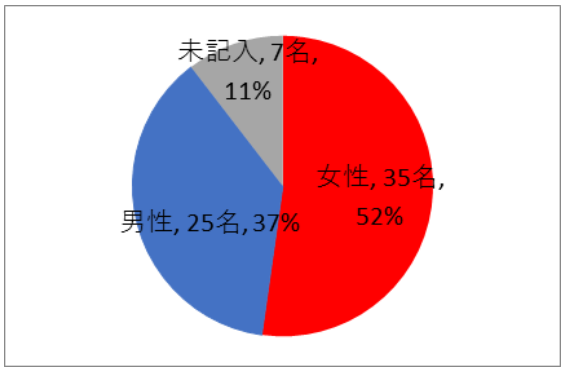
鹿児島の現在の悩みはリーダーの高齢化だといいます。人数的には十分な人数がいますが、次世代のリーダーが少なく、ある時ガクッとリーダーがいなくなるという時期が来るのではないかと危惧しています。次世代のリーダーたちにどうやってつないでいくかが目下の悩みだということでした。

（普及室／箱田敦只）

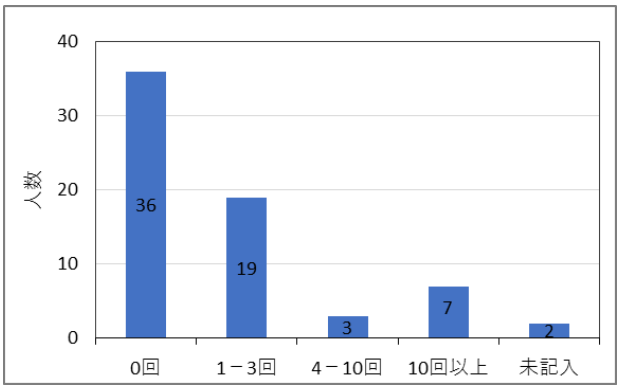
クリスマスにおしゃれな鳥をみつけましょう in 山下公園（神奈川支部）

【日程】2017 年 12 月 24 日（日）①9 時 00 分～10 時 15 分 ②10 時 45 分～12 時 00 分
【場所】山下公園（神奈川県横浜市）
【天候】曇り
【参加者】67 名（うち一般参加者 52 名）
【リーダー】９名、財団職員５名
【お試し入会者】11 名（一般参加者のうち約 21%）
【広報】
　＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook
　＜メール＞一斉メール送信（10/３～6、全国 51,602 名に送信）
　＜チラシ＞探鳥会のご案内（10 月初旬から全国約 80,000 名に送付）
　＜新聞＞朝日新聞（10/24）、神奈川新聞（12/4）
【後援】横浜市環境創造局

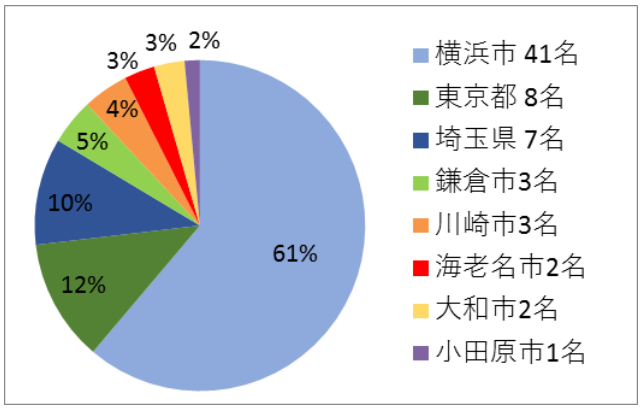
【性別】



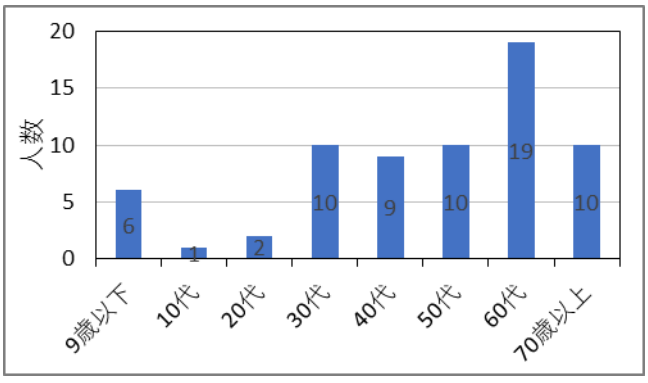
【バードウォッチングの経験回数】



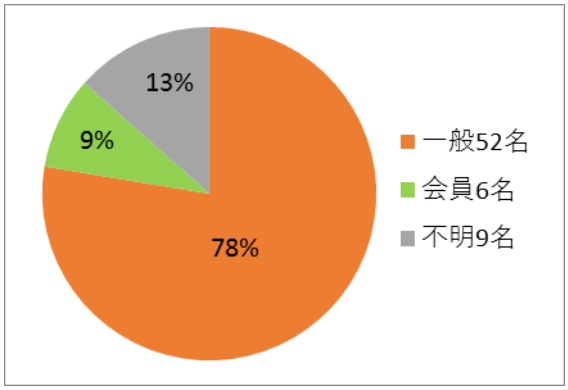
【お住まい】



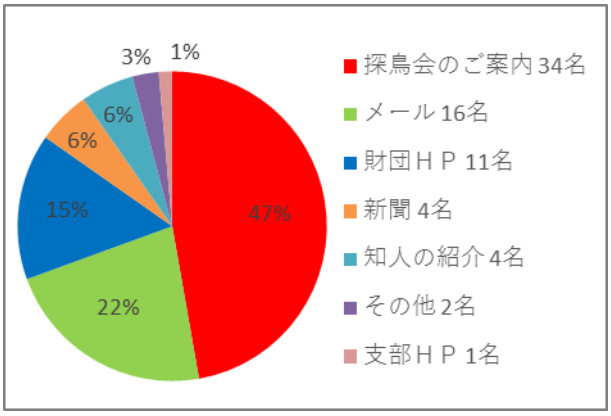
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

山下公園は横浜港の美しい景色を見ながら散策ができることもあり、多くの人に親しまれている人気の観光スポットです。広い公園内は日本の歴史を刻む記念碑などが多数あり、新旧の横浜を感じることもできます。

クリスマスイブの１２月２４日（日）、午前中に２回、各回１時間程のバードウォッチングが神奈川支部により企画されました。

参加者は各回とも約 30 名集まり、３～４班に分かれて観察をしました。

■探鳥会概要

当日は低い雲が空を覆うとても寒い日、気温は４℃。

集合場所は、参加者が分かりやすいように「赤い靴をはいてた女の子像」前とし、実際は後方にある芝生広場で受付を行いました。

集合場所へ到着した参加者には カード式の名簿への記入をお願いし、「おさんぽ鳥図鑑」をお渡しします。

神奈川支部ではカード式の名簿を使った受付は初めての試みでしたが、リーダー、スタッフ共にコミュニケーションを取りながら、スムーズに受付を行いました。

集合後、全体の挨拶にて日本野鳥の会の活動、自然保護についての紙芝居、お試し会員（ひな鳥会員）の簡単な説明、終了時間などの案内を10 分程度し、その場で班分けをしました。

▲集合の様子

各班には２名のリーダーが付き、自己紹介後「今日はせっかく山下公園に来たのだから、港にいる鳥を中心に、都市の公園で見られる身近な鳥を観察しましょう。」
と案内がありました。

スタートは海沿いを歩いて行きます。柵の近くを泳ぐスズガモたち、氷川丸のアンカーロープに並ぶユリカモメをリーダーは積極的にスコープで観察するよう促し、または図鑑を見せ、色や体の大きさなどの特徴を紹介していました。

その後、海沿いから公園の内側へ入り、木々や花壇の柵に止まるヒヨドリやスズメのかわいい姿を観察しました。参加者はスズメの丸い姿に
「かわいいね。」
と言い、ヒヨドリの鳴き声に
「これはよく聞く声！名前は知らなかった！」
と新しい発見に明るい表情を見せていました。

最後は集合場所に戻り、各班にて簡単な鳥合せとお試し会員の募集などがあり終了となりました。

▲観察の様子

■まとめ

リーダーの方が参加者へ、この探鳥会だけで無く、継続して自宅周辺でも観察できるよう、その際のポイントなども話されていたのが印象的でした。

終了後、参加者は次回（2/11、新治市民の森）への参加に意欲的であり、リピーターが徐々に増え、入会へ繋がるのではないかと思いました。

また、年末の一般的には慌ただしい時期での開催でしたが、買い物途中やクリスマスイベントへ向かう前に寄られた方もいて、初めの一歩として気軽に参加できる内容がとても良かったと思います。

（普及室／関祥子）

◆探鳥会保険集計結果（2018 年 1 月分）

1 月は 70 支部からご報告をいただき、計 295 回の探鳥会が開催され、のべ 7,865 人が参加されました。

表 2. 1 月の探鳥会保険集計結果（2018 年 2 月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員(人)	非会員(人)		
オホーツク支部	1	32	1	1	34
根室支部	–	–	–	–	–
釧路支部	2	9	0	3	12
十勝支部	–	–	–	–	–
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	0	0	0	0	0
道北支部	0	0	0	0	0
江別支部	–	–	–	–	–
札幌支部	3	91	52	9	152
小樽支部	2	8	6	3	17
苫小牧支部	1	12	1	2	15
室蘭支部	1	8	1	3	12
函館支部	–	–	–	–	–
道南桧山	1	8	13	3	24
青森県支部	–	–	–	–	–
弘前支部	3	20	0	3	23
秋田県支部	3	37	3	3	43
山形県支部	2	22	17	5	44
宮古支部	–	–	–	–	–
もりおか	1	22	4	5	31
北上支部	2	25	8	4	37
宮城県支部	6	87	33	13	133
ふくしま	1	23	0	2	25
郡山支部	2	26	0	4	30
二本松	–	–	–	–	–
白河支部	1	1	0	3	4
会津支部	1	8	1	1	10
奥会津連合	–	–	–	–	–
いわき支部	0	0	0	0	0
福島県相双支部	–	–	–	–	–
南相馬	–	–	–	–	–
茨城県	13	100	42	20	162
栃木	21	429	138	65	632
群馬	7	83	69	23	175
吾妻	0	0	0	0	0
埼玉	17	462	87	109	658
千葉県	11	165	75	49	289
東京	14	631	27	75	733
奥多摩支部	8	118	25	31	174
神奈川支部	15	284	72	52	408
新潟県	–	–	–	–	–
佐渡支部	–	–	–	–	–

富山	2	16	17	3	36
石川	1	15	3	3	21
福井県	2	5	25	8	38
長野支部	3	64	13	6	83
軽井沢支部	1	10	11	1	22
諏訪支部	2	15	10	3	28
木曽支部	1	4	1	1	6
伊那谷支部	0	0	0	0	0
甲府支部	2	46	21	4	71
富士山麓支部	1	8	1	2	11
東富士	-	-	-	-	-
沼津支部	1	53	2	9	64
南富士支部	2	70	16	3	89
南伊豆	1	9	0	2	11
静岡支部	3	26	6	7	39
遠江	2	51	36	14	101
愛知県支部	15	227	171	41	439
岐阜	-	-	-	-	-
三重	3	17	26	5	48
奈良支部	5	71	8	11	90
和歌山県支部	0	0	0	0	0
滋賀	5	35	71	10	116
京都支部	8	213	68	21	302
大阪支部	23	515	126	91	732
ひょうご	8	149	146	27	322
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	1	19	5	1	25
島根県支部	3	25	6	3	34
岡山県支部	5	89	50	15	154
広島県支部	5	73	38	6	117
山口県支部	7	27	23	7	57
香川県支部	2	92	13	3	108
徳島県支部	5	64	19	5	88
高知支部	-	-	-	-	-
愛媛	5	67	26	9	102
北九州支部	4	73	2	4	79
福岡支部	6	94	15	16	125
筑豊支部	2	23	0	2	25
筑後支部	4	29	4	8	41
佐賀県支部	4	83	6	6	95
長崎県支部	-	-	-	-	-
熊本県支部	5	68	28	9	105
大分県支部	2	27	20	2	49
宮崎県支部	2	24	8	2	34
鹿児島	3	49	22	10	81
やんばる支部	-	-	-	-	-
石垣島支部	-	-	-	-	-
西表支部	-	-	-	-	-
全国	295	5256	1738	871	7865

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■連携団体（支部等）向け卸販売をご利用ください■

通販カタログ「バードショップ」2018 春夏号が発行となります。会員の皆さまには、会誌「野鳥」４月号に同封、販売事業ご担当者の皆さまには連携団体（支部等）向け卸販売のご案内とあわせてお届けします。

仕入れた商品を連携団体で販売することで、探鳥会の参加者が図鑑や双眼鏡などバードウォッチングに必要な道具をその場で買えるようになり、サービスの向上につながります。さらに、売上は連携団体の収入になります。販売を通じてバードウォッチングの輪が広まるとともに、その販売収益が連携団体の活動の一助となれば幸いです。

●2018 年春夏号の特集・おすすめ商品

（１） ツバメ・スズメグッズが多数登場！

便せん、ワッペン、タオルハンカチなど、ツバメやスズメをモチーフにした商品が新発売します。「ツバメのねぐら入り観察会」での販売を想定し、掛け率や送料が通常よりもお得な商品もございます。ぜひ、探鳥会での販売にお役立てください。

（２） 野鳥の鳴き声手ぬぐい

「なきごえ手習帖」と題し、鳴き声をモチーフにした手ぬぐいを制作しました。鳴き声を楽しむきっかけや、探鳥会での話題にいかがでしょうか？

（３） 今年は新作 T シャツが３種！

①風力発電が野鳥にもたらす影響を伝えるための T シャツ

②マニアにはたまらない、ジシギ図鑑 T シャツ

③千人の森 T シャツに線画のシマフクロウが仲間入り

ほかにも、様々な双眼鏡やウェアなどのバードウォッチング用品、野鳥や自然にちなんだ商品を多数掲載しております。みなさまのご利用、お問い合わせをお待ちしております。

▲グッズ販売の様子（日本野鳥の会遠江の探鳥会にて）

●連携団体向け卸販売のご注文、お問い合わせ
普及室 販売出版グループまでお願いします。
TEL：03-5436-2623
FAX：03-5436-2636
E-mail：r-hanbai@wbsj.org

（普及室／嶋村早樹）

◆今月の購読者

探鳥会スタッフ通信３月号の電子メール版の購読者数は、先月より１名増えて837名です。各支部の購読者数は、「財団からの配信者数」と「支部からの転送による配信者数」の合計です。

表３．探鳥会スタッフ通信３月号電子メール版の購読者数（2018年３月14日現在）

支部	購読者数	支部	購読者数
オホーツク支部	6	長野支部	1
根室支部	0	軽井沢支部	1
釧路支部	2	諏訪	7
十勝支部	1	木曽支部	1
旭川支部	3	伊那谷支部	1
滝川支部	1	甲府支部	4
道北支部	1	富士山麓支部	0
江別支部	0	東富士	0
札幌支部	4	沼津支部	3
小樽支部	3	南富士支部	3
苫小牧支部	2	南伊豆	2
室蘭支部	5	静岡支部	2
函館支部	0	遠江	9
道南桧山	1	愛知県支部	44
青森県支部	1	岐阜	5
弘前支部	5	三重	19
秋田県支部	4	奈良支部	3
山形県支部	4	和歌山県支部	5
宮古支部	1	滋賀	20
もりおか	4	京都支部	30
北上支部	2	大阪支部	26
宮城県支部	39	ひょうご	16
ふくしま	4	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	10
郡山支部	1	島根県支部	13
二本松	1	岡山県支部	28
白河支部	2	広島県支部	9
会津支部	2	山口県支部	16
奥会津連合	0	香川県支部	6
いわき支部	1	徳島県支部	6
福島県相双支部	0	高知支部	1
南相馬	0	愛媛	15
茨城県	22	北九州	11
栃木	59	福岡支部	12
群馬	24	筑豊支部	21
吾妻	1	筑後支部	5
埼玉	38	佐賀県支部	5
千葉県	21	長崎県支部	1
東京	66	熊本県支部	14
奥多摩支部	48	大分県支部	4
神奈川支部	25	宮崎県支部	4
新潟県	2	鹿児島	3
佐渡支部	1	やんばる支部	0
富山	3	石垣島支部	1
石川	29	西表支部	1
福井県	10	合計	837

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の無料配信について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも受信できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

財団事務局のなかには、早くもツバメをみつけたスタッフがいるようです。みなさまのお住まいの地域ではいかがでしょうか？

また、バードウィーク一斉探鳥会の情報をお寄せくださったみなさま、ありがとうございました。来年度は、なんと 52 支部！で企画されています。詳細は、改めてご連絡いたします。

私は昨年の 4 月から事務局で働きはじめて、1 年が経ちました。この 1 年間で、探鳥会や会議で支部のみなさまとお会いする機会や、メールのやりとりをさせていただく機会が沢山ありました。そのときのことを思い浮かべながら配信ができることが、とても嬉しいです。

まだお会いしたことがない方にも、これから探鳥会やイベントでお会いできることを楽しみにしております。

来年度もどうぞ、よろしくお願いいたします。

（普及室／井上奈津美）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信 第 60 号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2018 年 3 月 19 日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org